

令和 5 年度 大阪夕陽丘学園高等学校 学校評価

1 めざす学校像

- ・自律した学習者の育成
- ・自らの価値を高め、自分事として行動できる生徒の育成

2 中期的目標

- 1 魅力ある学校づくり
 - (1)コースの特色の強化
 - (2)組織改編
 - (3)言語技術の導入
 - (4)学外機関との連携
 - (5)教職員の研修会の実施
- 2 自律した学習者の育成
 - (1)アントレチャレンジキャンプ実施
 - (2)ルールメイキングプロジェクトの実践
 - (3)自習室の活用
 - (4)生徒会活動の活性化
 - (5)SDGs 活動の実践
- 3 生徒募集活動と進路指導
 - (1)ホームページの活用
 - (2)広報活動の強化
 - (3)SNS の活用
 - (4)分野別ガイダンスの実施
 - (5)コース集会の実践

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [令和 5 年 2 月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>○生徒・保護者</p> <p>・35 項目中 28 項目で「よく当てはまる」「やや当てはまる」の肯定的な回答という結果になった。令和 4 年度は 26 項目、令和 3 年度は 32 項目、令和 2 年度は 33 項目、令和元年度は 32 項目と経年比較すると、令和になってから続いた学校の取り組みが生徒・保護者に理解が薄れつつある。特に学校教育そのものというより、学校としてどういう活動をしているのかが、生徒・保護者に伝わっていない傾向にある。</p> <p>・生徒・保護者との信頼感を示す項目はここ数年では低い数値になっている。本校の特徴の一つとして「面倒見が良い」などを挙げているが、本校の教育観が今の生徒・保護者からすると面倒見の良さになっていないことを示している。時代の変化の速さに対応する力が必要である。</p> <p>○教職員</p> <p>・35 項目中 30 項目でという結果に「よく当てはまる」「やや当てはまる」の肯定的な回答になった。令和 4 年度は 31 項目で増加傾向にある。今年含めてここ数年、専任講師は年 4 回、専任教諭は年 2 回の教員研修会を実施しており、学校の方向性理解が深まり、教育活動が展開出来ていると考えられる。</p> <p>・特徴的な項目は「私は建学の精神を知っている」で「よく当てはまる」と回答した教員が 100%に満たなかったのが残念であるが、非常に高い数値を示している。生徒・保護者の数値との乖離がある。「建学の精神」教員は理解できているが、生徒・保護者に伝える機会が少ないということの意味している。</p> <p>【分析】</p> <p>・ここ数年を相対的にみるとアンケート結果に大きな動きが無い。安定した教育活動が出来ているという評価ができる。一方で、教員と生徒・保護者での数値の乖離ある項目も改善できていない。毎年、同じことを「例年通り」として継続しているだけになっているところもあるように考えられる。良いところは伸ばし、改善の余地のある所は改善するという学校づくりに邁進したい</p>	<p>○全般</p> <p>・建学の精神は、私学の一番大切に、非常に重要な項目ですので、生徒・保護者への周知の施策を実施する機会を増やす必要があると考えます。</p> <p>・教員間の連携についても、評価が高くありません。教員間のコミュニケーション不足や、協力関係の欠如が背後にあるのであれば、それを是正するより具体的な施策をさらに検討されるべきでしょう。</p> <p>・ここ数年アンケート結果の数字に大きな変化がありません。安定した学校運営が出来ている反面、改善すべきところは改善出来ていないことを示しています。例年通りにならない取り組みが必要です。</p> <p>○教科教育</p> <p>・低学力生徒の指導については、教員と保護者・生徒の結果が同様であり、この点も、授業についていけない生徒へのフォローがさらにきめ細やかになされているものと思われます。全体的に教科教育については、適切になされているように感じます。他方、全体として教員による評価に比して、生徒・保護者の評価が高くない結果が出ているように思われます。この点は、毎年同じ傾向にあり、具体的な施策が求められる。</p> <p>○地域交流</p> <p>・「地域との交流に意識がある」「ボランティア活動を積極的に行っている」の項目は低い数値となっている。この項目も近年同じ数値を表している。これは生徒・保護者、教員とも数値と同じ傾向にある。地域に根付いた活動がなされていないことを示していることになるが、そもそも学校が地域と一緒に活動する機会を作っていく必要がある。</p> <p>○生徒指導</p> <p>・生徒からの信頼については、保護者・生徒の評価よりも教員が否定的な割合が高いのが気になります。生徒とのコミュニケーションは教員の業務の本質ですので、教員自身がもう少し高い評価を持てることが望まれます。</p> <p>・クラス運営については高い評価がなされているといえますが、問題行動については、保護者・生徒について教員ほどの高い評価になっていません。この点は原因を究明しておく必要があると考えます。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 魅力ある学校づくり	(1)コースの特色の強化 ㊦各コースの学びを理解する ①生徒に身に付けさせる資質を確認 ㊦将来を見据えさせる (2)言語技術教育の導入 ㊦言語技術教育の検証 ①生徒の習得度を上げる ㊦シラバスのブラッシュアップ	(1)コースの特色の強化 ㊦各コースの特徴を生かす ①各コースの取り組みを考える ㊦自分事として考えさせる。 (2)言語技術教育の導入 ㊦1年間の教育内容の見直し ①生徒の作文添削方法の確立 ㊦本校生徒の特長を把握する	(1)コースの特色の強化 ㊦各コースの目的を共用する ①各コース行事においての実践 ㊦生徒自身が行動を起こす (2)言語技術教育の導入 ㊦具体案の作成する ①中級講座研修会へ参加 ㊦小論文作成への目途を立てる	(1)コースの特色の強化 ・コースポリシーを作成した ・コース行事を全面的に見直した ・今身に付けないと資質を理解した (2)言語技術教育の導入 ・2年間のカリキュラムを作成した ・中級講座研修会が中止になった ・小論文作成への目途が立った
2 自律した学習者の育成	(1)アントレチャレンジキャンプの実施 ㊦現地での取り組み ①行先の再検討 ㊦振り返りレポート作成シラバス作成 (2)ルールメイキングプロジェクトの実践 ㊦新しい取り組みにチャレンジ ①外部機関での発表 ㊦全校生徒を巻き込む仕組みづくり	(1)アントレチャレンジキャンプの実施 ㊦授業での取り組み ①あらゆる行先の開発 ㊦3学期の授業内容の確立 (2)ルールメイキングプロジェクトの実践 ㊦教員と生徒の対話の機会を増やす ①各専門家との意見交換 ㊦ティーパーティーの実施	(1)アントレチャレンジキャンプの実施 ㊦授業と現地での取り組みがうまくいくか ①旅行行程も含めた行先の決定 ㊦入試に対応できるものにする (2)ルールメイキングプロジェクトの実践 ㊦新しい取り組みが出来た ①外部で3回以上発表する ㊦30名以上の集会を実施する	(1)アントレチャレンジキャンプの実施 ・初めての取り組みとしては成功 ・毎年ブラッシュアップが必要 ・色々な行先を検討した ・入試に対応できるものまでいかなかった。 (2)ルールメイキングプロジェクトの実践 ・行事ごとのルールメイキングを実施した ・外部で3回発表した ・13人の参加者にとどまった
3 募集活動と進路指導	(1)ホームページの活用 ㊦ホームページ最大限活用した募集活動を展開する ①入試情報の項目を充実させる ㊦ホームページをリニューアルする為の作業に入る (4)分野別ガイダンスの実施 ㊦進路希望調査をとり、分野を選定する ①ガイダンスに参加してもらえる学校を選定する ㊦生徒への告知し、周知させる	(1)ホームページの活用 ㊦入試行事の告知等に活用する ①デジタルパンフレット、募集要項等のデータをアップする ㊦業者選択に始まり概略を決定する (4)分野別ガイダンスの実施 ㊦1年生全員にアンケートを実施する ①各種学校に依頼をかける ㊦案内と参加することを促す	(1)ホームページの活用 ㊦告知できたか ①データをアップできたか ㊦業者選定等来年度からリニューアルできたか (4)分野別ガイダンスの実施 ㊦全員からアンケートを回収する ①50校以上学校に参加してもらう ㊦全員の参加させる	(1)ホームページの活用 ・入試行事の告知した ・すべてのデータをアップした ・業者の決定し、概略も完成した (4)分野別ガイダンスの実施 ・95%以上の生徒からアンケートの回収はできた。 ・32校に留まった ・50%ぐらいの参加率になった